

河川基金助成事業

「ハッ場ダム完成にあわせた完成前風景の記録と エコツアーによる発信」

助成番号：2019-6113-004

ハッ場ふるさとエコツアー実行委員会
篠原 久之

2019 年度

1. 事業概要

当会では、八ッ場ダム本体完了に向けた工事が進む八ッ場ダム周辺地域において、吾妻川および周辺の自然環境を保全・管理しながら、歴史資源とあわせて持続的に保全・活用を図るとともに、地域の拠点施設である道の駅を中心に、地域の魅力や取組の発信を行うことにより、住民自身も地域に誇りと愛着を持ち、地域外の人にも八ッ場ダムや河川現流域の暮らしや自然を認知・理解してもらうことを通じ、活力ある地域づくりをはかっていくことを目的に活動している。

2. 活動内容

地域の自然資源を保全しつつ、地元住民ならではの視点から地域の魅力を伝えるエコツアーを開催している。

今年度も、「八ッ場ふるさとエコツアー実行委員会」を適宜開催しながら、エコツアーの企画・準備調整や自律的な組織運営に向けた話し合いなどを進めた。企画に際しては、定番となったエコツアープログラムを前年度の開催を受けて改善したり、その年の状況を活かした内容に変更するなどしながら継続的に企画・開催した。また、エコツアーの開催にあわせ、広報用のちらしを製作、道の駅を中心に配布するとともに、道の駅のホームページや実行委員会のブログでの広報を行った。また、国や県にも広報にご協力頂いた。

今年度は、かねてよりの課題であった活動の組織的な自立化に向け、これまで林地区八ッ場ダム対策委員会の下で行ってきた活動を道の駅との連携による活動へと 2019 年度から移行すべく、規約等の検討・作成なども行った。

以下に、平成 31 年度における主な取り組みの内容を整理した。

2-1. エコツアーの企画・広報の実施

(1) エコツアーの企画

本年度は、以下の各エコツアーを企画、実施した。

表 2.1 平成 31 年度の主な事業・活動内容

開催月日	ツアー名
4月28日	エコツアー実行委員会
4月29日	吾妻溪谷八ッ場エコツアー
6月23日	立馬沢環境管理（草刈り）
6月29日 ～7月6日	ホテル観賞ウィーク
9月15日	八ッ場ダムエコツアー（完成直前）
10月27日	王城山紅葉エコツアー
10月27日	吾妻溪谷紅葉エコツアー
11月4日	やんばパワースポット紅葉エコツアー

(2) 広報の実施

エコツアーの広報として、以下を実施した。

- ①ちらしの製作・配付（道の駅での配布、関連協力機関・施設への配布含む）
- ②ブログの更新による情報発信
- ③他主体のイベント情報ページなど、インターネットの活用
- ④道の駅ホームページでの広報

①ちらしの製作・配付

本年度は、下記のエコツアー広報用ちらしを製作した。

ちらし内容	仕様	部数
平成 31 年度用ちらし（H29 度製作の増刷）	A 3・両面・カラー	2000 部
ホテルウィーク単独広報用ちらし	A 4・片面・カラー	500 部
2020 年度新緑エコツアーちらし作成（※1）	A 4・片面・カラー	開催・印刷中止
2020 年度用ちらし	A 3・両面・カラー	原稿案製作のみ

※1）原稿まで作成したが、新型コロナ対策のため開催・広報を中止

実際に製作したちらしは、「6. その他の製作物」として添付する。

配付にあたっては、拠点施設である「道の駅八ッ場ふるさと館」での配布を中心に、国土交通省、群馬県、長野原町等への協力依頼等により、配布を行った。



図 2.1 平成 31 年度 (2019) 年間ちらし (A3 両面)
 ※実際の印刷物を別途添付



図 2.2 ホタルウィーク用ちらし (左) と翌年度新緑ツアー用ちらし (右: コロナで印刷も中止)

② ブログの更新による情報発信

過年度に引き続き「ハッ場ふるさとエコツアー」のブログを活用し、参加者募集などの広報を行うとともに、実施後の報告などを行い、参加者に再訪問して貰えるよう留意した。



図 2.4 ブログ「ハッ場ふるさとエコツアー」
(アドレス: <http://ameblo.jp/yamba-furusato-ecotour>)

③他主体のイベント情報ページなど、インターネットの活用

環境関連のイベントの広報サイトへのエコツアー開催情報の書き込みを行った他、長野原町の観光情報 WEB サイト、群馬県の観光 WEB サイト（ぐぐっとぐんま）などに情報掲載の依頼を行った。



⑤拠点・道の駅を通じた広報の実施

活動の拠点である道の駅と連携した広報として、道の駅 HP や道の駅インフォメーションでのちらしの配布を通じたエコツアー実施の広報及び申込みや問合せ等の受付を行った。



図 2.6 道の駅 HP を通じた参加募集と申込み受付の実施

⑥SNS のメンバーアカウントからの発信

会メンバーのフェイスブックからの情報発信も行った。



2-3 エコツアーの開催

本年度は、自ら企画・運営したエコツアーとして、下記を開催した。

表 2.3 実施エコツアー一覧

開催月日	ツアー名	申込者数
4月29日	吾妻溪谷ハッ場エコツアー	33名
6月29日 ～7月6日	ホテル観賞ウィーク	7/4 15名 7/5 11名
9月15日	ハッ場ダムエコツアー（完成直前）	35名
10月27日	王城山紅葉エコツアー	催行人数に足らず中止
10月27日	吾妻溪谷紅葉エコツアー	13名
11月4日	やんばパワースポット紅葉エコツアー	8名

(1) エコツアーの実施結果

① 吾妻溪谷ハッ場エコツアー

「ハッ場ダム完成直前企画」として広報、30名の参加者を得て開催した。

天気にも恵まれ、新緑と春の可愛い草花を愛でながらの楽しいツアーとして満足の声をたくさん頂いた。



道の駅での受付の様子



歩き出す前の準備運動



大好評だった廃線歩き



ダム直下での見学と説明も好評だった



ヒトリシズカ



吾妻溪谷を散策

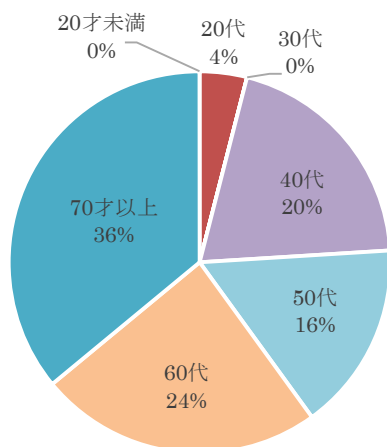


参加者全員で記念撮影

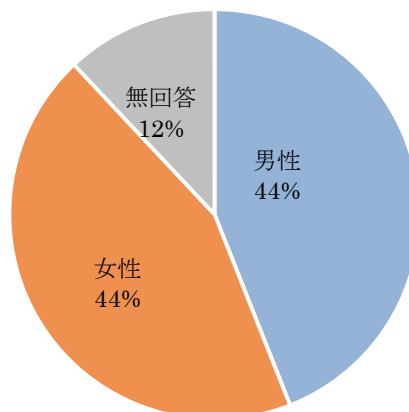
本エコツアーでは参加者にアンケートを行った。以下、アンケート票と結果を示す。

■ どの方が参加された？（参加者属性）

<年齢>

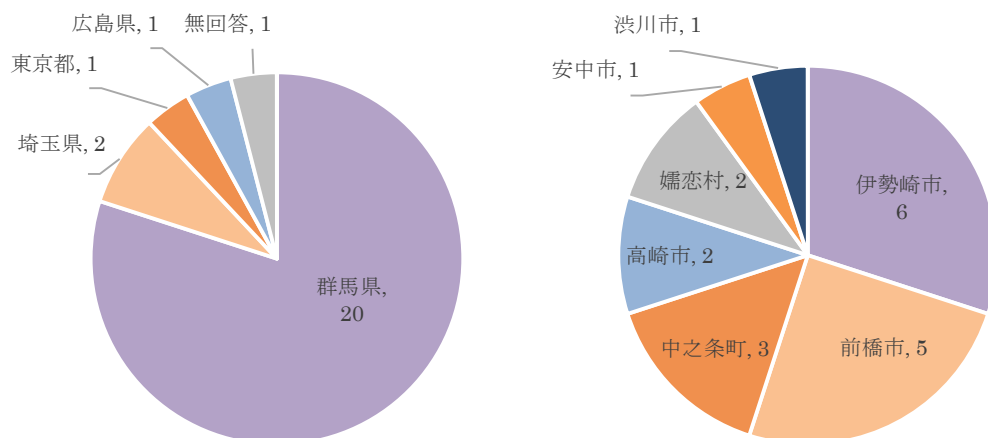


<性別>



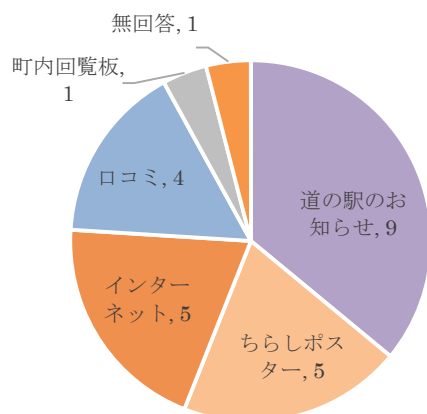
ご夫婦や友達同士での参加が多く、男女比はほぼ同じくらい、60才以上の方が60%を占めている。この傾向は八ッ場エコツアーのどのツアーでも同じような傾向がみられている。

<居住地>



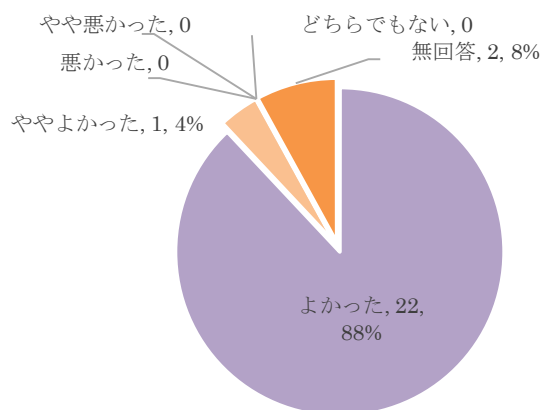
群馬県内では平野ぶにあたり市街地が広がる前橋市、高崎市、伊勢崎市からの参加や、お隣り町の中の条町、嬭恋村など、車で1～2時間以内からの参加がほとんどを占めている。その一方で、東京や埼玉など遠方からの参加も毎回少数ながら含まれており、中にはリピーターになって下さる方も出てきている。

■ ツアー情報の入手元



ツアーの情報をどこで知ったかについては、多様な入手元が選ばれており、実施している広報がそれぞれ活かしていることが確認された。また、一つ一つのエコツアーを丁寧に実施することで口コミに繋がっていると実感できた。

■ ツアーの内容について

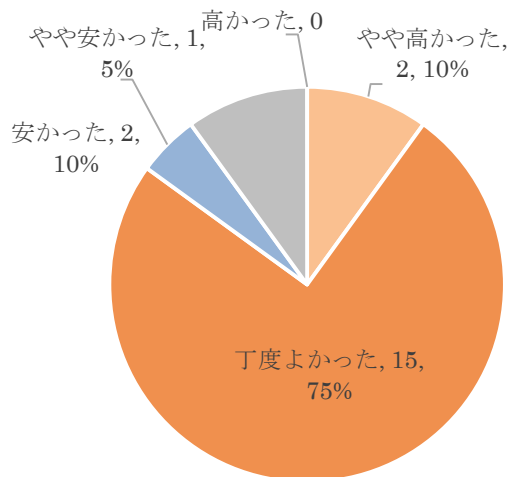


<一番印象に残った・よかったのは？>

- ・古道 8
- ・ダム直下からの見学、説明 1 2
- ・廃線歩き 2
- ・新緑
- ・お弁当
- ・ダム調査のトンネル
- ・個人でいけないところへ行けた 3

内容については、古道、ダム見学など、ツアーでポイントとした魅力が伝わった結果が得られた。ツアーの際の現場での反応では、廃線歩きの反応が最も大きい印象であったが、終わって振り返った時によかったと思った内容と必ずしも一致しないことが分かった。

■参加費について



<いくらまでなら払ってもよい？>

・6,000円	1名
・5,000円	2名
・3,000円	3名
・2,000円	2名
・1,500円	1名
・無回答	16名

→5千円、6千円の回答者は「やや安かった」、「安かった」と回答した3名。無回答のうち12名は「丁度よかった」と回答している。

「丁度よかった」が大半を占め、値段設定は適当であったと確認できた。「やや安かった」「安かった」とし、5000～6000円出してもいいという回答があったのは、嬉しい結果であった。今後、内容を充実させることで付加価値を高める可能性があると感じられた。

② ホタルエコツアーの開催

地元住民が大切に守り、育てているゲンジボタルの観賞会を昨年度に続き「ホタル・ウィーク」として1週間毎日を開催日として設定した。

天候の関係もあり、結果として開催できた日数は2日と多くなかったが、参加者は26名と少なくなく、平日に少人数で参加する人もいることから、引き続き次年度も同様の取組みを行うことを想定している。

ホタルのエコツアーは、どうしても写真による記録が残しにくく、今後は、写真撮影が得意な人に頼むなど、記録について検討を進めたいと考えている。

また、ホタルエコツアーに先立っては、地元の保全グループや県や国のご協力も得て、現地の草刈りやイノシシ対策など環境管理を行っていることから、こうした努力によって保全されていることについても、伝えていけるとよいかと考えている。



ホタルエコツアーを行っている立馬沢

③ ハツ場ダムエコツアー

今年度は、いよいよダム本体が完成し、10月から湛水が開始されるということから、湛水前の風景を多く記録するとともに、ツアー参加者にも見ておいて頂こうと、湛水直前の9月に湛水エリアを歩くツアーを国交省のご協力も得て企画、35名の参加で開催した。



出発前の挨拶・説明



地元ケーブルテレビの取材がありました



橋の上から水没地を眺める



この風景が見られるのもあとわずか



JRが走っていた鉄橋



カモシカの親子が姿を見せました



見晴台をしたから見上げます



ダム湖底になる場所から見上げました

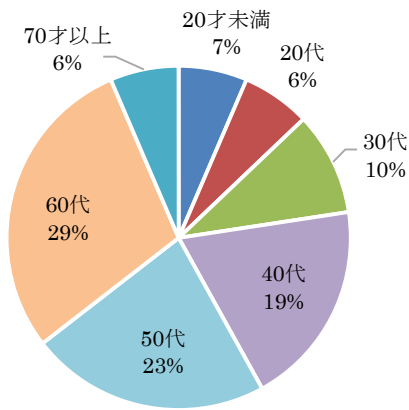


ダム直下で国交省の方の説明を聞きました

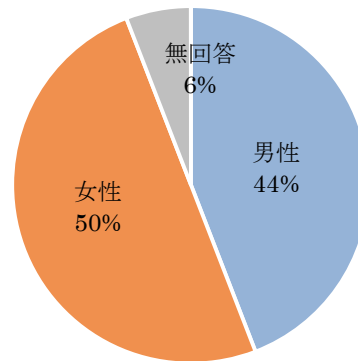
【参加者へのアンケート結果】

■ どの方が参加された？（参加者属性）

<年齢>

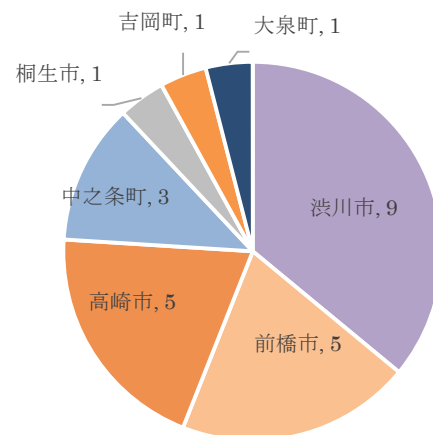
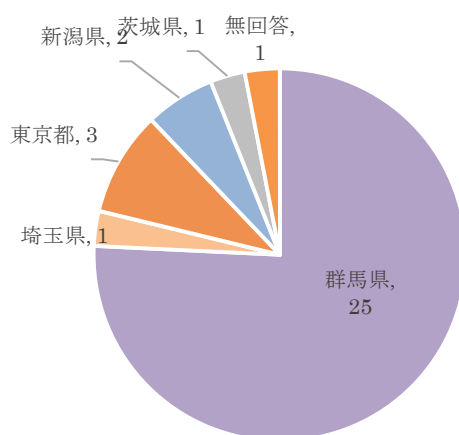


<性別>



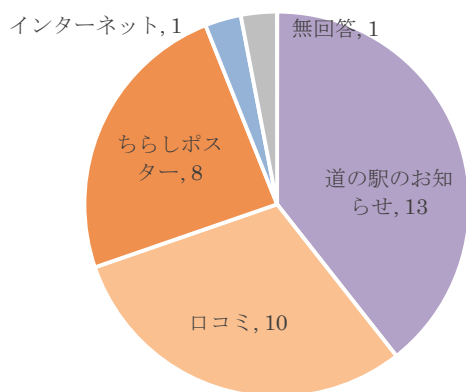
通常、60才以上の方が半数以上を占めることが多いが、今回はお子さんを含む家族連れの参加が多かったこともあり、若い世代の参加者が多かった。

<居住地>



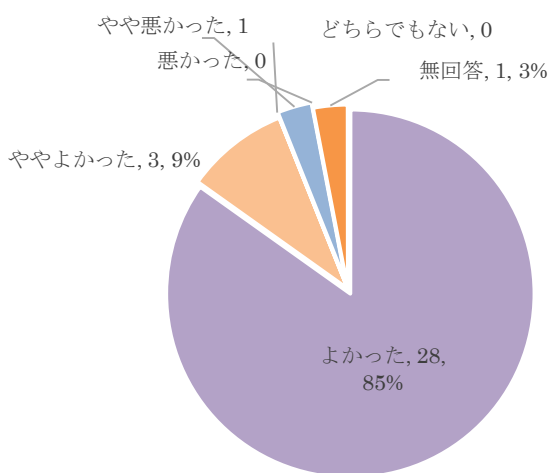
群馬県内からの参加者が圧倒的に多いのはいつも通りであったが、県外の様々な場所からの参加者があった。

■ ツアー情報の入手元



ツアーの情報をどこで知ったかについては、道の駅やちらし・ポスターが多いのはいつもと同じであったが、今回は特に口コミで参加された方が多かった。

■ ツアーの内容について

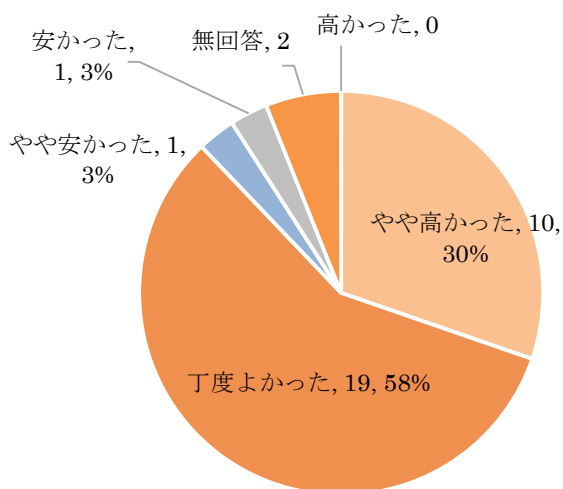


<一番印象に残った・よかったのは？>

- ・ダム直下からの見学、説明 13
- ・水没地域の景色、歩けたこと 10
- ・地元ガイドの話 2
- ・すべて 2
- ・岩脈 1
- ・歩いたこと 2

内容については、ダム直下まで行けたこと、水没地域を歩けたことに強い印象を受けた参加者が多かった。

■ 参加費について



<いくらまでなら払ってもよい？>

- ・3,000円 3名
- ・2,500円 2名
- ・2,000円 4名
- ・1,500円 3名
- ・1,000円 1名

→5千円、6千円の回答者は「やや安かった」、「安かった」と回答した3名。無回答のうち12名は「丁度よかった」と回答している。

「丁度よかった」が大半を占め、値段設定は適当であったと確認できた。ただ今回は「やや高かった」という回答がこれまでのエコツアーよりも多かった。ダム見学ツアーが別に無料で開催されていることも一つの理由ではないかと推測された。

④ 王城山紅葉エコツアー

申込者が最少催行人数を下回ったため、本年度のツアーは中止とした。昨年度も中止になっていることから、今後は開催日を他のツアーとずらしたり、広報対象を山歩き好きの人が見るサイトなどで発信したり、山歩きグループへの個別対応（日程をこちらで決めない）、山登り以外の魅力のアピール（野生動物を見せる、ダム湖のビューポイントを作る等）など、検討していきたい。

⑤ 吾妻溪谷紅葉エコツアー

10月27日（日）に吾妻溪谷紅葉ツアーを13名参加にて開催した。

吾妻溪谷をぐるっとめぐりながら、地域の歴史と紅葉を楽しみつつ、小蓬萊の展望台からは下流域の水源を支える八ッ場ダム本体の工事現場を遠望した。国交省の方がダム解説を担ってくださった。

⑥ やんばパワースポット紅葉エコツアー

11月4日に、8名の参加で開催した。林区内のお塚、王城山神社など地域のパワースポットをご案内した他、湛水したダム湖を眺めながら歩いた。国交省の方直々にダムについて解説して頂いた。

※助成金で購入した拡声器の活用について

これまで、参加者数が多い場合にガイドの声が列の後ろの方では聞こえなかったため、助成金で携行用拡声器を2台購入した。スピーカーとマイクが一体となったタイプと、スピーカーを別の人が携行できるタイプの2タイプを購入した。スピーカーとマイクを別携行できるタイプは、列の後ろにスピーカーを持っていくことで、聞こえにくい人を少なくする効果があった。今後、引き続き有効活用を図りたい。



携行型拡声器の活用状況

3. 事業・活動の効果と今後の課題

地域の自然を守りながら、利根川流域の人々に八ッ場ダム付近の自然や地域の魅力を伝えつつ、地域を元気にする取組みにしようとエコツアーを試行錯誤しながら行ってきた。当初より、河川基金の支援や国交省、群馬県等のご協力を頂く中で、一定数の参加者を集めて年間5企画の定例エコツアーを開催できるまでになったこと、参加者の中にはリピーターも増えてきており、自分たちの個性を活かした地域の魅力発信ができるようになった。

今年度のテーマである「ダム完成前風景の記録とエコツアーによる発信」については、ダム完成前に新緑ツアーと湛水直前ツアーにて水没地域を歩くツアーを実施することができ、参加者に伝えることができたとともに、写真撮影による記録を行った。今後は、撮影した写真を活用し、完成後の八ッ場ダムに訪れる人に伝えていきたいと考えている。

また、当初よりの課題であった、エコツアーの開催を自立的に行う組織づくりについても、昨年度に引き続き、道の駅との連携による実施をさらにステップアップし、道の駅の事業の一つとして、広報や受付などをエコツアーの参加費の一部から手数料として支払うことにより、継続的に実施してもらうことで合意し、今年度から試行を開始している。

小さなグループであり、歩みもゆっくりではあるが、今後も引き続き、地域の自然や歴史文化を守り、地域内外の人や次世代にしっかり伝えられるよう活動を行っていきたい。

今後の課題として次の各点を解決しながら、エコツアーを展開していきたい。

① メンバーの高齢化に伴う体制の見直し

この取組み当初からのメンバーは皆70才前後以上と高齢化が進んできており、体調不良によって思うように活動に参加できないメンバーが増えてきている。

今後は、体力を必要としないメニューの開発、新たな担い手となるメンバーの加入を目指したい。

② 川原湯温泉との連携

昨年度課題に掲げていた川原湯温泉との連携に今年度は取り組めなかった。新たなメンバーづくりと合わせ、今後の重要課題として、連携による仕組みやプログラムを検討・実現していきたい。

③ ダム完成による新たな展開の検討

昨秋、ダムが完成し、ダム湖に水がたまり、新たな風景が生まれている。今後は、ダム湖を生かした新たなエコツアーについても、展開を図っていかれたらと考える。ただ、その場合もダム完成までの道のりを忘れることなく引き続き伝え続けていく。

河川基金による助成を受けることができたことで、自立的・継続的にエコツアーを行っていく基盤・自信を持つことができました。その基盤・自信を元に、次年度からは、助成金なしで展開することに挑戦していきたいと考えています。

今後も、華々しい展開はなくとも、地元らしさを生かしたエコツアーを長く続けていきたいと考えています。長い間ご支援頂き、本当に有難うございました。

八ッ場ふるさとエコツアー実行委員会一同

2. 川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2019-6113-004	ハッ場ダム完成にあわせた完成前風景の記録とエコツアーによる発信	ハッ場ふるさとエコツアー実行委員会 篠原久之

主な実施箇所 群馬県長野原町：吾妻渓谷（利根川水系吾妻川）、王城山、立馬沢、道の駅ハッ場ふるさと館（活動拠点）ほか

助成事業の主な実施箇所



(拡大図)

※助成金で印刷させて頂いた広報ちらし（下記）、購入物品（購入物品資料参照）にて表示した。

河川基金ロゴ等表示状況写真



延べ参加人数	一般	115 名	スタッフ・事務局	16 名
マスコミ等の反響	ケーブルテレビによる取材・放映があったが特段大きな反響はなかったように思う。			